

平成 28 年度 鑑石園デイサービスセンター

事業報告書

1. 事業運営の概況

地域密着型デイサービスセンターとして、地域との連携の強化を心掛け、ボランティアに来て下さった地域の方々との交流の機会も多くとれるよう工夫した。

個々の利用者様の身体状況及び生活環境に応じたサービス提供を基本として、残存機能の活性化を図り、重度化を防ぐ事で、できる限り自立した日常生活を送ることができるよう支援を行った。

平成 28 年度の利用述べ人数は 2,318 名、平均稼働率は 62.5%であった。新規利用者の獲得ができず伸び悩み、前年度の稼働率を下回ってしまった。

2. 事業計画実施状況

(1) 職員の資質向上の為の方策

① 資格取得の推奨

3 年以上の介護経験を有する職員には介護福祉士国家資格の取得を推奨し、高度なレベルの知識や技術を習得する事でサービスの質の向上を目指した。

② 職員教育と研修

平成 28 年度は、レクリエーション関係の外部研修に複数の職員が参加し、デイサービスに適した内容のもの、介護予防に効果のあるものについて、知識を深めた。また、外部研修の成果をもとに他の職員に内部研修を行うことで、デイサービス全体のレベルアップを図った。

平成 28 年度に行った内部研修については、次の通り。

	研修内容
4 月	虐待
5 月	接遇
6 月	送迎時の事故対応
7 月	排泄・オムツ交換
8 月	聞こえについて
9 月	認知症について

10月	パーキンソン病について
11月	自己評価
12月	感染症対策
1月	身体拘束
2月	来年度の事業計画
3月	28年度の反省

③ チームケアの確立

一人の利用者様に対し、全ての職員が共通の認識に基づき接することができるよう、職員同士の意思疎通を図り、チームで支え合うという基本方針を確立するための環境作りに努めた。

(2) 地域と連携を強化させるための方策

① 地域行事への参加

近隣のお祭りに出かけ、利用者様にも大変喜んで頂けた。職員サイドで協力できるものについても可能な限り参加し、地域の方々との交流を深めた。

② 地域への積極的な情報発信

支援センターや他の在宅サービスの職員と協力して、民協や地区の集会への積極的な参加や、パンフレットや季刊誌を配布する等、積極的に情報を発信した。

③ ボランティアの充実

定期的読み聞かせの方が、季節の本、昔懐かしい童話や歌を交えて楽しませてくれた。また、近隣保育園の園児による歌と遊戯は利用者様に大変好評で、園児との交流を喜んで頂けた。

④ 運営推進会議の開催

地域の方やご家族を主に活動状況を報告し、必要な要望や助言を聴く機会を設け、地域との連携や運営の透明化に努めた。

(3) 個別ケアの充実とリスク管理を徹底させるための方策

① 個別機能訓練の強化と向上

ケアプランを基に、ご家族の希望に沿った内容の個別機能訓練計画書を作成し、介護職員も協力して機能訓練を行った。

訓練内容については、家庭では行う事が難しい運動等もできるだけ取り入れて、身体能力の維持、向上に役立てるよう工夫した。

また、外気に触れ、景色を楽しんで頂くことを目的として、屋外歩行訓練を積極的に行ったところ、意欲の向上が見られ、楽しい雰囲気の中で行う事が出来た。

② 個別対応の拡大

個々の利用者様について、ケアプランを基に、介護支援専門員と連携し、利用者様、ご家族のニーズを把握した上で、柔軟に対応した通所介護計画を作成した。

サービス提供に際しては、通所介護計画に基づき、個別対応を心掛けた。

③ リスクマネジメント意識の向上

ヒヤリハットをその場で報告することで、事故を未然に防ぐことができた。

また、危険箇所や動作、事故につながる可能性のあるものについては、ミーティング時や朝礼時において、その都度改善策・対応方法についての検討を行い、改善に努めた。